

1. 歴史、自然環境

■歴史資源

①洲崎古戦場碑

- ・1333年（元弘3年）に新田義貞が鎌倉を攻めた時にこの地で激しく戦った。山崎・上町屋・寺分・梶原の一角を洲崎郷と呼んでいた。

②泣塔

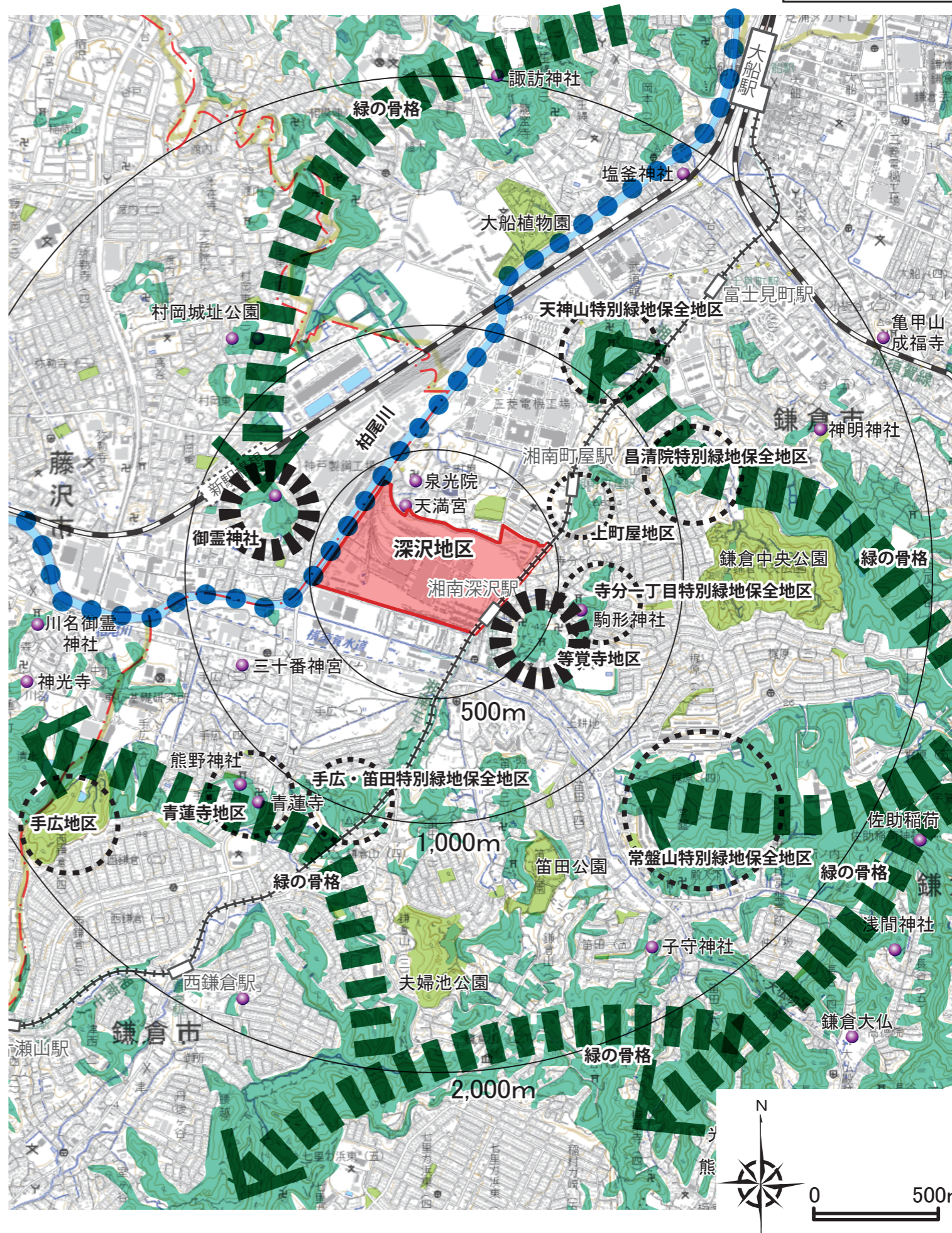
- ・丘の上に、泣塔と呼ばれる石造の宝篋印塔と、その後ろのやぐらの中に数基の五輪塔がある。
- ・これらの石塔は、1333年（元弘3年）に新田義貞が鎌倉を攻めた時の洲崎の合戦における戦死者の霊を慰めるために、23回忌の1356年（延文元年）に建てられた供養塔であるといわれている。
- ・泣塔は、まとまったよい形の塔であるに加え、基礎の石にはっきりと文和5年（1356年）の年号が刻まれており、塔そのものが文化財として大変価値のあるものである。

③天満宮

- ・平安時代の天慶年間（938～946年）に、藤沢の村岡にいた平良文という武士が、夢のお告げで天神をまつたのがはじまりといわれている。

④深沢の名前の由来

- ・江戸時代の『江島大草子（えのしまおおぞうじ）』に「鎌倉から海月（くらげ）（横浜市金沢区方面）にかけて長い湖があり、その周囲四十余里もあって、これを『深沢』と呼び、水を満々とたたえた」と書かれている。
- ・縄文時代以前は、今の深沢から大船にかけて深い入り江があったと考えられており、『深沢』の地名は、この湖に由来しているといわれる。



■自然環境

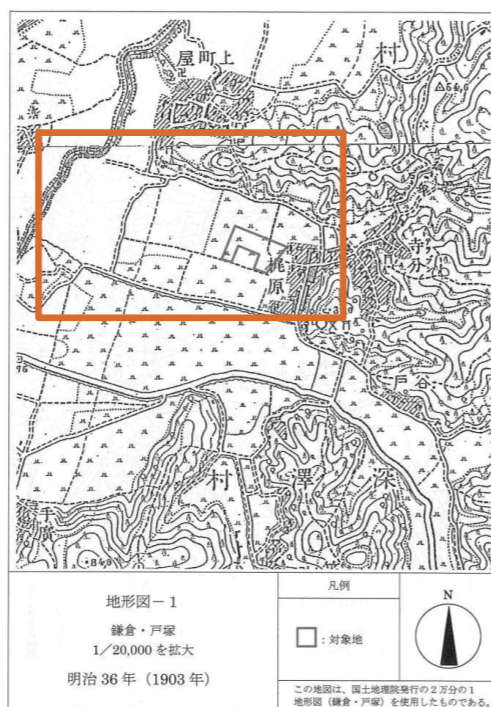
①緑

- ・深沢地区は、緑の骨格に取り囲まれている
- ・事業区域は、東西の緑地に挟まれている（御霊神社、等覚寺）

②水

- ・事業区域の西側に、柏尾川が隣接している
- ※事業区域の南側に、梶原川が隣接しているが、道路機能の強化のためボックス化

●明治時代は、田畑だった



<出典>
・かまくら子ども風土記